

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能	単位	5	時間	120				
科目	生態機能学 I	単位	2	時間	60	進度	1年次前期				
目的	人体を構成する各部の形態と機能を学び、それによって生物体が生存のために営む複雑な仕組みを理解する										
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師				
学習目標	授業内容						講師				
人体とそれを構成している器官や組織の構造と機能について理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成とその働き <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命とは何か? 2) 遺伝子・細胞・組織・器官・器官系 3) 人体を表現する医学用語と体表の観察 4) 外皮 2. 体液と血液 <ol style="list-style-type: none"> 1) 水の化学的性質と身体機能との関係 2) 体液 3) 血液の構造とその意義 3. 身体の支持と運動 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨の構造と生理学的意義 2) 全身の骨格 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 3) 筋肉の構造と働き 4) 全身の骨格筋 </td> </tr> </table> 4. 循環と呼吸 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器の概念 2) 心臓の構造と機能 3) 心電図の原理 4) 血管の構造と機能 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 5) 大循環系と肺循環系及び胎児循環 6) 血圧 7) 呼吸器の構造(気道と呼吸部) 8) 呼吸の生理学 </td> </tr> </table> 5. 消化と吸収・排泄 <ol style="list-style-type: none"> 1) 消化・吸収・排泄とは何か 2) 消化管の構造と機能 3) 肝臓と胆路の構造と機能 4) 泌尿器の構造と機能 6. 情報の処理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 神経系の構造と機能 2) 目の構造と視覚 3) 耳の構造と聴・平衡感覚 7. 身体の調節 <ol style="list-style-type: none"> 1) 恒常性とは何か? 2) 内分泌調節 3) 自律神経の構造と機能 4) 体温 8. 生殖と発生 <ol style="list-style-type: none"> 1) 性差と思春期 2) 生殖細胞と性染色体 3) 男性生殖器の構造と機能 4) 女性生殖器の構造と機能 5) 受精と胎児発生 <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">1年時・2年時に肉眼解剖見学、顕微解剖実習を行い学びを深める</p>						<ol style="list-style-type: none"> 1) 骨の構造と生理学的意義 2) 全身の骨格 	<ol style="list-style-type: none"> 3) 筋肉の構造と働き 4) 全身の骨格筋 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器の概念 2) 心臓の構造と機能 3) 心電図の原理 4) 血管の構造と機能 	<ol style="list-style-type: none"> 5) 大循環系と肺循環系及び胎児循環 6) 血圧 7) 呼吸器の構造(気道と呼吸部) 8) 呼吸の生理学 	医師 医学博士
<ol style="list-style-type: none"> 1) 骨の構造と生理学的意義 2) 全身の骨格 	<ol style="list-style-type: none"> 3) 筋肉の構造と働き 4) 全身の骨格筋 										
<ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器の概念 2) 心臓の構造と機能 3) 心電図の原理 4) 血管の構造と機能 	<ol style="list-style-type: none"> 5) 大循環系と肺循環系及び胎児循環 6) 血圧 7) 呼吸器の構造(気道と呼吸部) 8) 呼吸の生理学 										
テキスト: テキストは指定せず、内容に合わせた講義資料及び演習問題を作成し配布する 参考書: 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]. 医学書院											

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能	単位	5	時間	120			
科目	生態機能学Ⅱ	単位	1	時間	30	進度	1年次後期			
目的	人体の正常な生体機能がどのような機序で現れ維持されているのかを、細胞、組織、器官から捉え理解する									
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師			
学習目標	授業内容						医師 医学博士			
生態機能学Ⅰで学んだ身体の基本的な構造と機能に関する知識を踏まえて、刻々と変化する外部環境の中で人体がいかにして生命を維持し、その形質を子孫へ継承させているかを理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成とその働き <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命とは何か? 2) 遺伝子・細胞・組織・器官・器官系 3) 人体を表現する医学用語と体表の観察 4) 外皮 2. 体液と血液 <ol style="list-style-type: none"> 1) 水の化学的性質と身体機能との関係 2) 体液 3) 血液の構造とその意義 3. 身体の支持と運動 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨の構造と生理学的意義 2) 全身の骨格 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 3) 筋肉の構造と働き 4) 全身の骨格筋 </td> </tr> </table> 4. 循環と呼吸 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器の概念 2) 心臓の構造と機能 3) 心電図の原理 4) 血管の構造と機能 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 5) 大循環系と肺循環系及び胎児循環 6) 血圧 7) 呼吸器の構造(気道と呼吸部) 8) 呼吸の生理学 </td> </tr> </table> 5. 消化と吸収・排泄 <ol style="list-style-type: none"> 1) 消化・吸収・排泄とは何か 2) 消化管の構造と機能 3) 肝臓と胆路の構造と機能 4) 泌尿器の構造と機能 6. 情報の処理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 神経系の構造と機能 2) 目の構造と視覚 3) 耳の構造と聴・平衡感覚 7. 身体の調節 <ol style="list-style-type: none"> 1) 恒常性とは何か? 2) 内分泌調節 3) 自律神経の構造と機能 4) 体温 8. 生殖と発生 <ol style="list-style-type: none"> 1) 性差と思春期 2) 生殖細胞と性染色体 3) 男性生殖器の構造と機能 4) 女性生殖器の構造と機能 5) 受精と胎児発生 <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">1年時・2年時に肉眼解剖見学、顕微解剖実習を行い学びを深める</p>							<ol style="list-style-type: none"> 1) 骨の構造と生理学的意義 2) 全身の骨格 	<ol style="list-style-type: none"> 3) 筋肉の構造と働き 4) 全身の骨格筋 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器の概念 2) 心臓の構造と機能 3) 心電図の原理 4) 血管の構造と機能
<ol style="list-style-type: none"> 1) 骨の構造と生理学的意義 2) 全身の骨格 	<ol style="list-style-type: none"> 3) 筋肉の構造と働き 4) 全身の骨格筋 									
<ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器の概念 2) 心臓の構造と機能 3) 心電図の原理 4) 血管の構造と機能 	<ol style="list-style-type: none"> 5) 大循環系と肺循環系及び胎児循環 6) 血圧 7) 呼吸器の構造(気道と呼吸部) 8) 呼吸の生理学 									
テキスト: テキストは指定せず、内容に合わせた講義資料及び演習問題を作成し配布する 参考書: 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]. 医学書院										

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能	単位	5	時間	120
科目	生化学	単位	2	時間	30	進度	1年次前期
目的	生体の構成成分である物質の構造機能と、生体内で営まれている代謝過程のメカニズムを学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						理学博士
生体の成り立ちと構成している基本物質について理解する	1. 生体の成り立ちと生体分子 1) 生体の成り立ち 2) 細胞の構造と機能 3) 生体の成分と物質 4) 物質輸送と情報伝達						
栄養と代謝のメカニズムについて理解する	2. 栄養と代謝 1) 物質の分解と合成 2) 消化・吸収 3) 酵素 4) ビタミンと補酵素 5) 糖代謝 6) 脂質代謝 7) アミノ酸代謝と先天性代謝異常						
内部環境の恒常性について理解する	3. 体液と電解質 1) 体液 2) 水と電解質 3) 酸・塩基平衡						
血液成分とそのはたらきを理解する	4. 血液成分と機能 1) 血液成分 2) 血液凝固 3) 生体防御・免疫 4) ホルモン						
代謝産物の排泄について理解する	5. 排泄の機能 1) 腎臓の構造 2) ろ過と再吸収 3) 尿生成の体液性調整						
遺伝のしくみについて理解する	6. 遺伝のしくみ 1) 遺伝子と遺伝 2) 遺伝子の発現 3) 突然変異と遺伝性疾患						
テキスト: わかりやすい生化学—疾病と代謝・栄養の理解のために—, ヌーヴェルヒロカワ 参考書: 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学, 医学書院 看護学生のための自己学習2 生化学・栄養学 3版, 金芳堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	微生物学	単位	1	時間	30	進度	1年次前期
目的	微生物の生物界における位置や微生物が繁殖するための機構、微生物が人体におよぼす影響を学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験				講師
学習目標		授業内容					大学助教 医学博士 理学博士
微生物学の基礎的知識を理解する	1.微生物とはなにか 1)微生物の種類と特徴 2)細菌の性質 3)真菌の性質 4)原虫の性質 5)ウイルスの性質						
感染の基本的な概念を理解する	2.感染とその防御 1)感染と感染症 2)免疫のしくみ 3)感染源・感染経路からみた感染症 4)感染症の予防 5)感染症の治療 6)感染症の現状と対策 化学療法薬 7)おもな病原微生物						
感染症とその予防方法を理解する	3.感染症の診断 1)病原体を検出する方法と実際(演習) 手洗い後、検体採取し顕微鏡で観察 2)生体の反応から診断する方法						
テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4]微生物学. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	栄養と生活	単位	1	時間	30	進度	1年次後期
目的	生体を維持するために不可欠な栄養について知り、健康を支える食生活や人体の機能、疾病の成り立ちやその回復に適した食事療法について学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験				
学習目標	授業内容						講師
健康に生活するうえで重要な食生活を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康と栄養 2.日常生活と栄養 3.食物と栄養 4.ライフステージと健康教育 <ol style="list-style-type: none"> 1)母性の栄養 2)乳幼児期の栄養 3)学童期の栄養 4)思春期の栄養 5)成人期の栄養 6)老年期の栄養 						管理栄養士 (病院で19年の実務経験有)
臨床栄養の基本を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 5.臨床栄養の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1)病院食の概要 2)呼吸器・脳・神経系 3)消化器系疾患 4)肝臓病 5)循環器系疾患 6)糖尿病 7)腎臓系 8)栄養補給法 9)チーム医療 6.調理実習 						
テキスト:わかりやすい 栄養学. ヌーヴェル・ヒロカワ 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法. 医学書院 新食品成分表. とうほう							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	薬理学	単位	1	時間	30	進度	1年次後期
目的	薬物の作用・効果・性質を理解し、薬物が生体に及ぼす影響、病態に応じた薬物療法のあり方を学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						薬剤師 (病院で41年の実務経験有)
人体への薬物のほたらきかけや薬物への生体側の反応を理解する	1.薬理学とは 1)薬物治療の目ざすもの 2)薬物作用 3)投与方法 4)薬効因子						
治療に伴う薬物の作用・副作用を理解し、主要となる薬物治療の基礎的知識を理解する	2.抗感染症薬 3.抗がん薬 4.免疫治療 1)免疫抑制薬 2)免疫増強薬 3)予防接種薬 5.抗アレルギー薬・抗炎症薬 1)抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2)炎症と抗炎症薬 3)関節リウマチ治療薬 4)痛風治療薬 6.末梢神経に作用する薬 1)交感神経作用薬 2)副交感神経作用薬 3)筋弛緩・局所麻酔薬 7.中枢神経に作用する薬 1)全身麻酔薬 2)催眠薬・抗不安薬 3)抗精神病薬 4)抗うつ薬 5)パーキンソン症候群治療薬 6)抗てんかん薬 7)麻薬性鎮痛薬 8.心臓・血管系に作用する薬 1)降圧・利尿薬 2)抗狭心症治療薬 3)強心薬・抗不整脈薬 4)高脂血症治療薬 5)血液に作用する薬物 9.呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬 10.物質代謝に作用する薬 1)ホルモンおよびホルモン拮抗薬 2)治療薬としてのビタミン 11.その他の薬 1)皮膚科・眼科用薬 2)救急に用いられる薬物 3)漢方薬 4)消毒薬 12.看護業務に必要な薬の知識 1)薬液の単位 2)薬液濃度の計算方法						
テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学, 医学書院 参考書:今日の治療薬, 南江堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論 I (病理学総論)	単位	1	時間	15	進度	1年次後期
目的	疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						講師
病因、病理的变化の特徴を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病理学の目的 2) 死体解剖保存法と病理解剖の意義 3) 病理学検査 2. 退行性変化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 萎縮・変性・壊死・アポトーシス 2) 個体死 3. 進行性変化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 肥大・再生・過形成・化生 2) 肉芽組織と組織修復 4. 循環障害 <ol style="list-style-type: none"> 1) 虚血・充血・うっ血・出血 2) 血液凝固障害 3) 梗塞 4) 心不全 5. 代謝障害 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脂質代謝異常 2) 糖質代謝異常 3) タンパク質代謝異常 4) 核酸代謝異常 6. 免疫機構の異常 <ol style="list-style-type: none"> 1) アレルギー反応 2) 免疫不全症 3) 自己免疫疾患 7. 炎症 <ol style="list-style-type: none"> 1) 炎症とは 2) 急性炎症 3) 慢性炎症 8. 腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> 1) 腫瘍とは 2) 良性腫瘍 3) 悪性腫瘍 9. 奇形と先天異常 <ol style="list-style-type: none"> 1) 染色体の異常 2) 催奇形因子と臨界点 3) 単体奇形 4) 二重体 						医師 医学博士
テキスト: テキストは指定せず、内容に合わせた講義資料及び演習問題を作成し配布する 参考書: 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学, 医学書院							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅱ(呼吸器・循環器)	単位	1	時間	30	進度	1年次前期・後期
目的	呼吸器や循環器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ						
呼吸器(14時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
呼吸機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)呼吸困難 2)咳嗽・喀痰・血痰 3)喀血		4)チアノーゼ 5)喘鳴 6)呼吸の異常		医師 (総合病院で19年、診療所で2年の実務経験有)		
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)胸水検査 2)画像診断 3)内視鏡検査		4)生検 5)呼吸機能検査 6)血液検査、動脈血液ガス分析				
	3.治療・処置 1)吸入療法 2)酸素療法 3)人工呼吸療法		4)胸腔ドレナージ 5)呼吸器外科の手術 6)薬物療法				
呼吸機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)感染症 2)間質性肺疾患 (1)肺炎 (2)塵肺 3)気道疾患 (1)喘息 (2)慢性閉塞性肺疾患		4)肺血栓塞栓症 5)呼吸不全 (1)過換気症候群 (2)睡眠時無呼吸症候群 6)肺腫瘍				
循環器(16時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験	講師			
学習目標	授業内容						
循環機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)胸痛 2)浮腫 3)チアノーゼ 4)ショック				大学特任教授 医師 (総合病院で42年の実務経験有)		
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)心電図 2)胸部X線検査、核医学検査、コンピュータ断層撮影 3)心臓超音波 4)心臓カテーテル法 5)血行動態モニタリング 6)動脈血ガス分析						
	3.治療・処置 1)薬物療法の基本 2)心臓カテーテル治療 3)ペースメーカー治療 4)手術療法						
循環機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)虚血性心疾患 2)心不全 3)血圧異常 4)不整脈 5)弁膜症 6)心筋疾患		7)動脈系疾患 (1)大動脈瘤 (2)大動脈解離 (3)閉塞性動脈硬化症 8)静脈系疾患 9)リンパ系疾患				
テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器. 医学書院							
テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器. 医学書院							
参考書:成人看護学 成人看護技術. 南江堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅲ(消化器)	単位	1	時間	15	進度	1年次後期
目的	消化器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ。						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						大学教授 医師 (総合病院で26年の 実務経験有)
消化機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1. 主な症状 1) 嚥下困難 2) 嘔吐 3) 腹痛 4) 吐血・下血 5) 下痢 6) 便秘 7) 腹水 8) 黄疸 9) 肝性脳症						
検査と治療・処置の方法を理解する	2. 検査 1) 肝機能検査 2) 超音波検査 3) 内視鏡検査 4) 肝生検 5) 放射線検査 3. 治療・処置 1) 薬物療法 2) 食事療法 3) 手術療法 4) 放射線療法						
消化機能障害の主な疾患を理解する	4. 疾患 1) 食道の疾患 (1) 食道がん (2) 胃食道逆流症 2) 胃・十二指腸疾患 (1) 胃・十二指腸潰瘍 (2) 胃がん 3) 腸および腹膜疾患 (1) 腸炎 (2) 虫垂炎 (3) イレウス (4) ポリープ (5) 結腸がん・直腸がん (6) 肛門疾患 4) 肝臓・胆嚢の疾患 (1) 肝炎 (2) 肝硬変 (3) 門脈圧亢進症 (4) 肝がん (5) 胆石症 (6) 胆嚢胆管炎 (7) 胆嚢がん 5) 膵臓の疾患 (1) 膵炎 (2) 膵臓がん						
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器. 医学書院 参考書: 成人看護学 成人看護技術. 南江堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅳ(運動器)	単位	1	時間	15	進度	1年次後期
目的	運動器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						医師 (総合病院で6年、診療所で46年の実務経験有)
運動機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1. 主な症状 1) 疼痛 2) 形態の異常 3) 関節運動の異常 4) 神経・筋の障害 5) 異常歩行または跛行						
診断・検査と治療・処置の方法を理解する	2. 診断の方法 1) 問診・視診・触診 2) 肢位または姿勢 3) 計測 3. 検査 1) 画像検査 2) 骨密度の測定 4. 治療・処置 1) 保存的治療 2) 手術療法 3) 理学療法と作業療法 4) 義肢と装具						
運動機能障害の主な疾患を理解する	5. 疾患 1) 外傷性の運動器疾患 (1) 骨折 (2) 脊髄損傷 (3) アキレス腱断裂 2) 内因性の運動器疾患 (1) 先天性疾患 (2) 変形性関節症 (3) 関節リウマチ 3) 骨腫瘍 4) 代謝性骨疾患 5) 筋および腱の疾患 6) 神経の疾患 7) 上肢および上肢帯の疾患 8) 脊椎の疾患						
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]運動器. 医学書院 参考書: 成人看護学 成人看護後術. 南江堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅴ(脳神経)	単位	1	時間	15	進度	1年次後期
目的	脳神経の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ。						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						
脳神経障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	<p>1. 主な症状</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 意識障害、高次脳機能障害 2) 運動・感覚機能障害 3) 反射性運動の障害 4) 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 5) バイタルサインの変化 6) 髄膜刺激症状 7) 頭痛 						<p>【9/15時間】</p> <p>医師 医学博士 (総合病院で28年の実務経験有)</p> <p>【6/15時間】</p> <p>医師 (総合病院で24年の実務経験有)</p>
検査と治療・処置の方法を理解する	<p>2. 検査</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 神経心理学的検査、診察法 2) 画像診断 3) 脳波検査 4) 髄液検査 <p>3. 治療・処置</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 外科的治療法 2) 薬物療法 						
脳神経機能障害の主な疾患を理解する	<p>4. 疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 脳血管障害 2) 脳腫瘍 3) 頭部外傷 4) ギラン・バレー症候群 5) 重症筋無力症 6) 筋ジストロフィー 7) 筋萎縮性側索硬化症 8) パーキンソン病 9) クロイツフェルト・ヤコブ病 10) てんかん 11) 認知症 						
<p>テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7]脳・神経. 医学書院</p> <p>参考書: 成人看護学 成人看護後術. 南江堂</p>							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅵ(血液、内分泌、アレルギー)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	血液・造血器、内分泌・代謝系統、及び生態防御機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ						
血液・造血器(10時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験		講師		
学習目標		授業内容					
血液・造血機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)貧血 2)白血球増加症 3)白血球減少症		4)リンパ節腫脹・脾腫 5)出血性素因	医師 (総合病院で17年、病院で29年の実務経験有)			
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)末梢血検査 2)骨髄穿刺・生検	3)症候とその病態生理					
	3.治療・処置 1)化学療法 2)補助療法	3)移植療法 4)支持療法					
血液・造血機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)赤血球系の異常 2)白血球系の異常	3)造血器腫瘍 4)出血性疾患					
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4]血液・造血器. 医学書院							
内分泌・代謝(14時間)							
方法	講義	評価方法	テスト		講師		
学習目標		授業内容					
内分泌・代謝機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)やせ 2)肥満 3)皮膚の異常 4)神経・筋症状		5)眼症状 6)甲状腺腫大 7)無月経 8)浮腫	大学教授 医師 (総合病院で26年の実務経験有)			
検査の方法を理解する	2.検査 1)ホルモンの血中濃度測定 2)ホルモン負荷試験	3)画像検査 4)代謝疾患の検査					
内分泌・代謝機能障害の主な疾患を理解する	3.疾患 1)視床下部-下垂体疾患 2)甲状腺疾患 3)副甲状腺疾患 4)副腎疾患	5)糖尿病 6)脂質異常症 7)肥満症 8)尿酸代謝異常					
系統テキスト: 看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝. 医学書院							
アレルギー・膠原病(6時間)							
方法	講義	評価方法	テスト		講師		
学習目標		授業内容					
生体防御機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)アレルギー反応 2)アナフィラキシー 3)発熱		4)リウマチ性症状 5)皮膚粘膜症状 6)内臓の炎症性症状	医師 (総合病院で26年、病院で15年の実務経験有)			
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)血液検査・スキンテスト 2)免疫学的検査	3.治療・処置 1)薬物療法 2)減感作療法					
生体防御機能障害の主な疾患を理解する	4.疾患 1)膠原病 (1)関節リウマチ (2)全身性エリトマトーデス (3)シェーグレン症候群 (4)ベーチェット病	2)感染症 (1)インフルエンザ (2)HIV感染症と日和見感染症					
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症. 医学書院							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅶ <small>(腎・泌尿器、女性生殖器)</small>	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	腎・泌尿器の機能と性・生殖機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ						
腎・泌尿器(20時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						
腎・泌尿器の機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1. 主な症状 1)尿の異常 2)水と電解質の異常 (1)浮腫 (2)脱水		3)高血圧 4)血液の異常 5)尿毒症 6)疼痛			医師 (総合病院で13年、診療所で6年の実務経験有)	
検査と治療・処置の方法を理解する	2. 検査 1)尿検査 2)腎機能検査 3. 治療・処置 1)手術療法 2)排尿管理		3)尿路機能検査 4)画像検査 3)透析療法 4)腎移植				
腎・泌尿器の機能障害の主な疾患を理解する	4. 疾患 1)腎不全と慢性腎臓病 2)原発性糸球体腎炎 3)全身性疾患による腎障害 4)尿路・性器の感染症 5)尿路の通過障害と機能障害 6)尿管結石症 7)尿路・性器の腫瘍 8)男性不妊症、勃起障害						
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器. 医学書							
女性生殖器(10時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						
女性生殖器の機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1. 主な症状 1)出血 2)帯下 3)疼痛 4)下腹部膨満		5)外陰部痒痒感 6)排尿障害 7)自律神経症状、不定愁訴 8)リンパ浮腫			【4/10時間】 医師 (総合病院で7年、診療所で26年の実務経験有)	
検査と治療・処置の方法を理解する	2. 検査 1)理学的検査 2)病理検査 3)細菌・ウイルス検査 4)画像検査 5)その他の検査 3. 治療・処置 1)診察 2)薬物療法 3)手術療法						
女性生殖器の機能障害の主な疾患を理解する	4. 疾患 1)外陰の疾患 2)陰の疾患 3)子宮の疾患 4)卵管・卵巣の疾患 5)乳房の疾患		6)機能性疾患 (1)月経異常・月経随伴症状 (2)更年期障害 (3)不妊症 7)性感染症				
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9]女性生殖器. 医学書							
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器. 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9]女性生殖器. 医学書院 参考書: 成人看護学 成人看護技術. 南江堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論Ⅷ(感覚器)	単位	1	時間	15	進度	2年次前期
目的	感覚機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ						
皮膚(6時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						
皮膚の機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)発疹 2)痒痒 3)皮膚の老化			医師 (総合病院で9年、病院で9年、診療所で18年の実務経験有)			
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)皮膚科的検査法 2)病原微生物の検査法 3)病理組織検査法						
皮膚の機能障害の主な疾患を理解する	3.治療・処置 1)全身療法 2)外用療法 3)手術療法						
	4.疾患 1)アトピー性皮膚炎 2)物理・化学的皮膚障害			4)光線療法 5)レーザー療法			
	3)感染症 4)内臓疾患に伴う皮膚病変						
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12]皮膚. 医学書院							
眼(6時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						
視機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)視機能に関連した症状 2)視機能に関連しない症状			医師 (総合病院で6年、診療所で29年の実務経験有)			
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)視力検査 2)眼底、眼圧検査						
視機能障害の主な疾患を理解する	3.治療・処置 1)点眼法 2)手術療法						
	4.疾患 1)網膜・硝子体の疾患 2)水晶体の疾患 3)緑内障			3)視野、色覚、調節力検査			
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13]眼. 医学書院							
歯・口腔(6時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						
歯・口腔の機能障害時にみられる主な症状と病態生理を理解する	1.主な症状 1)疼痛 2)出血			3)開口障害 4)咀嚼・嚥下障害			歯科医師 (総合病院で1年、診療所で4年の実務経験有)
検査と治療・処置の方法を理解する	2.検査 1)口腔内検査 2)画像検査			3)歯科・口腔外科的検査			
歯・口腔の機能障害の主な疾患を理解する	3.治療・処置 1)齶蝕の治療 2)歯周困疾患の治療			3)外科治療 4)矯正治療			
	4.疾患 1)齶蝕 2)歯周組織の疾患 3)口腔粘膜の疾患 4)口腔領域の腫瘍			5)歯と顎骨の外傷 6)顎関節の疾患 7)唾液腺の疾患			
テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[15]歯・口腔. 医学書院							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	12	時間	285
科目	疾病論IX (放射線・リハビリ・手術)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	疾病の回復を促進する特殊治療の原理と、障害への適応と社会復帰への看護に必要なリハビリテーション看護を学ぶ						
放射線治療(6時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験		講師		
学習目標	授業内容						
放射線の特徴と治療についての基礎的知識を理解する	1.放射線の医療への応用 1)放射線の種類と性質 2)放射線の医学利用 3)健康影響とその管理 4)放射線診療と看護師の役割						
主な放射線による診断と検査時の基礎的知識を理解する	2.放射線診断と看護 1)X線診断 2)血管撮影 3)MRI 4)超音波 5)核医学						
テキスト:新体系看護学 別巻 放射線診療と看護. メヂカルフレンド社							
リハビリテーション(8時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験		講師		
学習目標	授業内容						
リハビリテーションの基本的考え方を理解する	1.リハビリテーションとは 1)リハビリテーションの定義と理念 2)障害者の実態 3)障害者の分類と構造 4)リハビリテーションの分野						
リハビリテーション医療は専門職種の協働によって成り立つことを理解する	2.リハビリテーション医療システム 1)チームメンバー 2)チームワーク						
リハビリテーション看護の基礎的知識を理解する	3.リハビリテーション看護 1)リハビリテーション看護の確立 2)リハビリテーション看護の機能 3)障害に対する態度 4)リハビリテーション看護の方法論						
テキスト:系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護. 医学書院							
手術療法(16時間)							
方法	講義	評価方法	筆記試験		講師		
学習目標	授業内容						
外科的治療によりおこる生体反応の基礎知識を理解する	1.手術侵襲と生体の反応 1)手術侵襲とは 2)侵襲に対する生体反応 2.麻酔法 1)麻酔の種類 2)術前管理 3)術中管理 4)術後管理 5)全身麻酔 6)局所麻酔						
外科的な処置の基本手技、創傷管理の基本と実際の処置を理解する	3.外科診療に必要な基本手技 縫合と抜糸 4.創傷管理						
術後疼痛のメカニズムと術後の合併症を理解し、術後の管理方法を理解	5.術後の回復を促進するための看護 6.術後合併症の発生機序 7.おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応						
テキスト:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論. 医学書院							
テキスト:新体系看護学 別巻 放射線診療と看護. メヂカルフレンド社 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護. 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論. 医学書院 参考書:成人看護学 成人看護技術. 南江堂							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位	6	時間	105	
科目	総合医療論		単位	2	時間	30	進度	1年次後期
目的	多様化する保健・医療・福祉の活動について、医療現場における倫理的課題をも含め総合的に学ぶ							
方法	講義		評価方法	筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						講師	
保健・医療に携わる者として基本となる総合医療の概略と科学技術の発展によってもたらされた影響について理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.医療の歩みと医療観の変遷 2.科学的技術の進歩と現代社会の最前線 3.現代医療の新たな課題 <ol style="list-style-type: none"> 1)先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 2)生命倫理学と臨床倫理学の展開 3)医療不信から「賢い患者」へ 4)インフォームドコンセントと医療情報の開示 4.医療を見つめ直す新しい視点 <ol style="list-style-type: none"> 1)臨床疫学－医療における合理的判断 2)患者の安全 3)医療の管理と評価 4)これからの先端医療開発 5)情報化社会と医療 						【14/30時間】 医師 (総合病院で6年、診療所で46年の実務経験有)	
方法	講義		評価方法	筆記試験			講師	
学習目標	授業内容						講師	
これからの望ましい医療のあり方と医療に必要な担い手の資質を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.医療と看護の原点－病と癒し <ol style="list-style-type: none"> 1)命について考える 2)健康とは 3)病の体験 4)癒しの行為と癒しの知 5)チーム医療とマネジメント 2.私たちの生活と健康 <ol style="list-style-type: none"> 1)もしも私たちが病気やけがをしたら 2)私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 3)疾病の一次予防と健康増進 4)少子高齢化社会と世代間のきずな 5)障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 6)心の健康と精神医療 3.保健・医療・福祉の潮流 <ol style="list-style-type: none"> 1)新時代の保健・医療の担い手 2)プライマリケアの新たな展開 3)医療におけるケアの視点 4)地域包括システムの新しい展開 5)保健・医療・福祉システムと地域住民の役割 						【16/30時間】 本校専任教員(45年) 看護師 (病院で4年の実務経験有)	
テキスト: 系統看護学講座 別巻 総合医療論, 医学書院 参考書: 国民衛生の動向 適宜関係図書紹介 資料配布								

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位	6	時間	105	
科目	地域保健論		単位	2	時間	30	進度	1年次後期
目的	公衆衛生の基礎的内容や生活者の健康増進に対応した法制度と保健活動がどのように進められているかを学ぶ							
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師	
学習目標	授業内容						講師	
住民の健康づくりを支援する公衆衛生活動の基礎を理解する	1.公衆衛生の理解 1)健康と公衆衛生 2)公衆衛生のあゆみ (1)日本における公衆衛生のはじまり (2)プライマリヘルスケア (3)ヘルスプロモーション 3)公衆衛生の学術基盤 4)公衆衛生の地域活動						【12/30時間】 大学助教 医師 医学博士 【8/30時間】 大学助教 文学博士	
国民の健康と保健統計を理解する	2.人口と公衆衛生 1)人口の動向と公衆衛生 2)人口の動向把握に必要な指標 3)少子高齢化と公衆衛生						【10/30時間】 大学助教 薬剤師 (国公立大学で9年の実務経験有)	
疾病の疫学と予防方法を理解する	3.疾病の疫学と予防 1)感染症 2)感染症の予防と対策							
健康教育と保健活動に必要な地域保健法の主な内容と、市町村役割の重要性を理解する	4. 公衆衛生と健康教育 1)健康教育の基本的考え方 2)公衆衛生における健康教育 3)健康教育と保健活動 5.公衆衛生活動の実際 1)母子保健 2)学校保健 3)成人保健 4)産業保健 5)高齢者保健福祉 6)精神保健福祉 7)難病、障害児に関する対策 8)健康危機管理							
テキスト:新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学. メヂカルフレンド社 参考書:国民衛生の動向								

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度	単位	6	時間	105
科目	社会福祉論	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	社会保険の理念と基本的な考え方について理解し、生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題を学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験				講師
学習目標	授業内容						短期大学教授 社会福祉学修士
社会保障と社会福祉の概念を理解する	1.社会福祉の理念 1)社会福祉の意味 2)社会福祉の定義 3)社会福祉の構造 4)社会福祉における住民参加と社会福祉運動 5)社会福祉と看護の関連 2.生活問題の展開と社会福祉の基本的動向						
社会保険制度の歴史的沿革及び実態、今後の課題を理解する	3.社会保障制度と社会福祉制度 1)社会保障制度 2)社会福祉の法制度 3)社会福祉の組織と管理 4.医療保障 5.介護保障 6.所得保障 7.公的扶助 8.社会福祉の分野とサービス						
医療・看護と福祉の連携の重要性を理解する	9.社会福祉実践と医療・看護 1)社会福祉援助の検討課題 2)連携の重要性 3)社会福祉実践と医療・看護との連携						
テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉. 医学書院 参考書: 国民衛生の動向							

専門基礎分野

分野	専門基礎分野	教育内容	健康支援と社会保障制度			単位	6	時間	105	
科目	関係法規	単位	1	時間	15	進度	1年次後期			
目的	保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解し、看護職としての職責を正しく遂行するために必要な法規を学ぶ									
方法	講義	評価方法	筆記試験			講師				
学習目標		授業内容							薬剤師	
関係法規を十分に理解するための基礎的知識を学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法律の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 法とは 2) 衛生法 3) 厚生行政 									
医療に携わるものにとって最も重要な法規を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 2. 医事法規 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 3) 医師法 4) 薬剤師法 5) 診療放射線技師法 6) 臨床検査技師、衛生検査技師に関する法律 7) 理学療法士及び作業療法士 3. 薬事法規 <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬事法 2) 薬剤師法 3) 毒物及び劇物取締法 4) 麻薬及び向精神薬取締法 5) あへん法 6) 大麻取締法 7) 覚せい剤取締法 8) その他の薬事法規 									
国民の健康の保持・増進を目的とする関係法規を理解	<ol style="list-style-type: none"> 4. 保健衛生法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康増進法 2) 地域保健法 3) 母体保護法 4) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 5) 精神保健福祉士法 6) 母子保健法 7) 老人保健法 8) 介護保険法 9) 予防接種法 10) 結核予防法 11) 栄養士法 12) 健康保険法 13) 国民健康保険法 5. 労働関連法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 労働基準法 2) 労働条件の原則 3) 育児・介護休業法 									
テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令, 医学書院 参考書: 看護学生のための法学, 日本看護協会出版社										